

白鷹町の決算概要報告



一般会計

歳入

107億7,189万円

歳出

98億7,705万円

一般会計の歳入決算額（税金など町へ入ってきたお金）は107億7,189万円で前年度に比べ6,806万円（0.6%）増、歳出決算額（町が使ったお金）は98億7,705万円で前年度に比べ、2億1,329万円（2.2%）増となりました。歳入歳出差引は8億9,484万円、翌年度へ繰り越した事業に充てるべき財源を控除した実質収支は8億490万円となりました。

¥

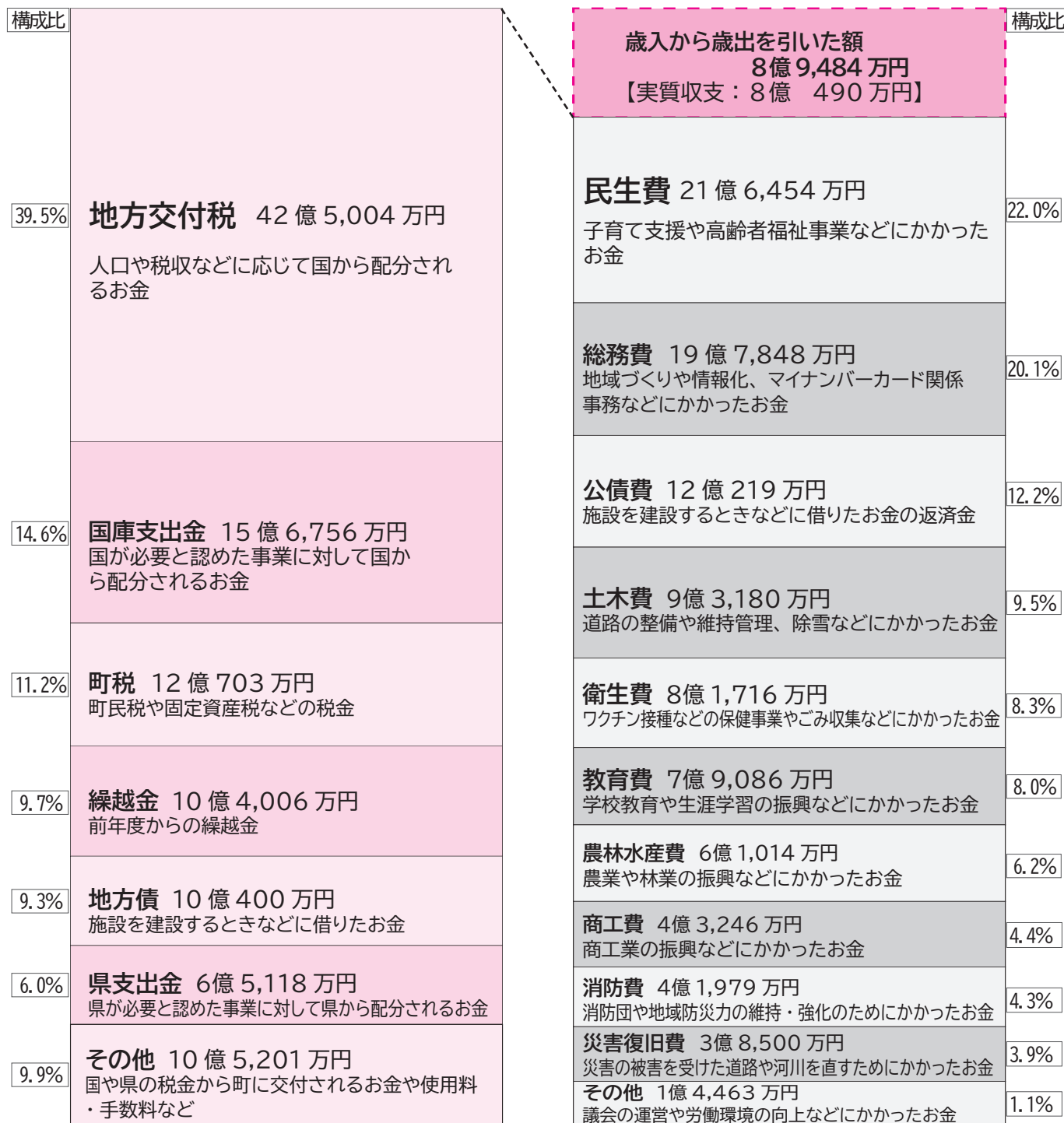
グラフで見る一般会計（歳入・歳出）

歳入決算額 107億7,189万円

前年度比 6,806万円増（0.6%増）

歳出決算額 98億7,705万円

前年度比 2億1,329万円増（2.2%増）



※地方財政状況調査による区分により集計しています。

※項目ごとに四捨五入しているため合計などが一致しないところがあります。

令和4年度は、このように
お金が使われました！



歳出を町民一人あたりでみると

総額 78万486円 (前年比3万2,691円増)

※町民一人あたりの金額は、令和5年3月31日現在の町の住民基本台帳人口1万2,655人で割ったものです。

民生費 使われたお金…21億6,454万円

町独自策による全年齢保育料完全無償化、副食費無料化を実施し、子育て環境の充実に取り組みました。また、第2期健康と福祉の里構想に基づき、町立病院及び健康福祉センターの長寿命化及び機能拡充に向けた基本設計に着手しました。障がい者福祉事業として、児童発達支援センターを整備する社会福祉法人への支援などを行いました。



児童発達支援センターにこっと外観

総務費 使われたお金…19億7,848万円

地区コミュニティセンターを核とした地域づくりの支援や、地域拠点の一つである鷹山地区拠点施設の整備を行いました。デマンドタクシーの町外延伸便では、新たに長井市の商業施設を経由地に追加し利便性の向上を図りました。また、行政のデジタル化に向け、町民課窓口での来庁者の負担軽減を図るためマイナンバーカードを利用した申請支援システムの構築を行いました。



鷹山地区拠点施設外観

公債費 使われたお金…12億219万円

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済を行いました。

土木費 使われたお金…9億3,180万円

町道や橋梁の長寿命化工事や河川の堆積土砂の撤去など重要インフラの安全確保を行うとともに、定住促進・転出抑制対策として、子育て支援住宅及び若者定住促進住宅の整備に向けた基本設計等を行いました。

衛生費 使われたお金…8億1,716万円

新型コロナウイルスワクチン接種の実施や、健康寿命の延伸のため健康診査の受診率向上へ取り組みました。母子保健事業において産後ケア事業の充実に加え、妊娠期からの伴走型相談支援と給付金交付を実施しました。また、地球温暖化防止の取組として、新たに蓄電池設備の設置に対する助成を実施しました。



教育費 使われたお金…7億9,086万円

ICT支援員の配置による授業支援などデジタル学習環境の充実に図ったほか、老朽化した学校施設の改修等を行いました。また、荒砥高校支援として、高校魅力化コーディネーターの配置により小規模校ならではの魅力づくりを進め、令和5年度の入学者数は40名となりました。



農林水産業費 使われたお金…6億1,014万円

長引く新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢による燃料等の生産資材の高騰の影響を受け、生産資材の購入支援を実施したほか、農家所得の向上を目的とした産地づくりの推進や、有害鳥獣被害対策として電気柵等の設置支援に取り組みました。また、森林再生・林業支援として伐って、使って、植える、育てるの「緑の循環システム」の実践に取り組みました。

商工費 使われたお金…4億3,246万円

物価高や燃料費・電気料金の高騰を受け、全町民に対する地域応援券の配布や、事業者向け原価価格等高騰対策支援給付金の支給など、住民生活支援と事業者支援の両面で支援を行いました。また、観光分野では、コロナ禍に縮小していた各種イベントを通常に近い形で開催するとともに紅花生産支援等を継続して行いました。



消防費 使われたお金…4億1,979万円

消防団員装備の充実に図ったほか、自主防災組織が行う防災訓練等に対する支援を行うなど、地域防災力の一層の充実・強化に取り組みました。



災害復旧費 使われたお金…3億8,500万円

令和4年8月豪雨災害により被災した農業用施設などの復旧事業を行いました。

その他 使われたお金…1億4,463万円

企業における従業員の正社員化に向けた支援を行ったほか、議会運営に必要な経費を支出しました。